



国際交流の会
とよなか

孤児院を、女性たちの自立の場に

内戦で親を亡くした少女たちが暮らす孤児院「子どもの家」。
今ここで、NPO法人国際交流の会とよなかの支援の下、
彼女たちの自立に向けた活動が進行中だ。

内戦で親を失った子どもたち

ネパールの首都カトマンズから南東に車で約10時間。シムズリにある「子どもの家」では、姉が妹を寝かしつけるように優しく添い寝する光景がよく見られる。心細くなつて涙ぐむ子に、上の子が優しく寄り添っているのだ。ここは、10年にも及んだ内戦で親を失った少女たちが暮らす孤児院。7歳から18歳までの18人が家族のように一緒に暮らす。中にはストリートチルドレンだった子もいるという。

シムズリは国内でも内戦が激しかった地域の一つ。農業に頼り切りの生活は貧しく、インドや中東に出稼ぎに出る人も多い。まして、親を亡くした子どもたちは、学校どころか、ご飯も満足に食べることができない。しかしこの地域には、孤児となった少女のための施設は存在しなかった。そこで1999年、NPO法人国際交流の会とよなかの支援によって誕生したの

孤児たちに「ハッピーな将来を

昨年、10年間の教育を終えた「子どもの家」の少女は5人、今年3人が卒業を控えている。「なんとか手に職をつけて、自立の道を探っていきたい」というのが、彼女たちの願いだ。

これまで孤児院では、親族の有無や向学心などに応じて、卒業生の自立を支えるための奨学金を貸与してきた。しかし彼女たちは「施設に残って職業訓練を受けたい」と言う。

その声に応じて始められたのが、JICA A基金を活用した自立のためのサポートプログラムだ。まず、「子どもの家」の2階をトレーニングルームとして改修し、作業台



職業訓練の一環として少女たちが学ぶのが、ジャナクプル地方に古代から伝わる伝統的なミティラー・アート。イベントなどで展示販売される



内戦で親を失った子どもたちが暮らす「子どもの家」ではJICA基金を活用して、2階をトレーニングルームに改装。小袋を縫う少女たちが

や棚を新たに据えつけた。壊れていたミシンも修理した。小袋や普段着を作るためだ。技術指導に当たるのは、近くに住む女性。日本からも洋裁の先生を派遣する計画がある。また、現地の伝統画法であるミティラー・アートのトレーニングも積み、その作品はすでに日本で販売されている。「それを買いたい日本人の写真が、彼女たちのやる気を大いに刺激している」と筒井さんは話す。単に技術を学ぶだけでなく、彼女たちに利益が還元されるよう、ビジネスとしてやっていくことが重要なのだ。

サポートプログラムには、野菜栽培や養鶏も含まれる。これらの技術が習得できれば、野菜や鶏肉、卵などを自給できるようになり、農業技術指導員としての道も開ける。「そうなれば、地域の人々からも頼られる存在になるでしょう。そして、いつか手に職をつけ、自立した孤児たち自身が、「子どもの家」の運営を主体的に担ってくれれば。支援に携わってきた国際交流の会とよなかのメンバーが抱いてきたそんな願いも、実現できるかもしれない。

「少女たちが幼かった時代からずっと見守ってきた多くの人の思いを引き継ぎ、今、一人一人が自立への道をどう歩んでい



現在7歳から18歳の18人の女の子が共同生活を送る「子どもの家」。年長者が年下の子ども世話をし、本当の家族のように暮らす

くかを見つめています」と筒井さん。孤児たちが仲良く生きる、恵まれた場所。は、女性たちが自立するための場所へと変化しようとしている。

「子どもの家」は、英語で「Happy Girls Home」。内戦が生んだ悲劇の孤児たちが自立を果たして、本当の「ハッピー」を手にする日もそう遠くないだろう。

が「子どもの家」。1日3食が提供され、学校にも通わせてくれる。孤児にとってはまさに恵まれた場所だ。また、米や野菜を差し入れたり、夜中に発病した子どもを病院へ連れて行く手助けをしてくれるなど、地域の人々の施設を見る目も温かい。

事務局長の筒井百合子さんは、「子どもの家」を初めて訪れた時のことをこう振り返る。「孤児院と聞いて暗いイメージを持っていたが、とても雰囲気明るく清潔で驚きました。特に、子どもたちがはにかみながらあいさつしてくれた時の澄んだ目が今も心に残っています」。

しかし、10年間の教育が終わると環境は大きく変わる。いまだに政情不安が続く、カースト制度の残るネパールでは、女性が自立して生きていくことが難しい。まして親や保護者がいない場合、他人の家の使用人や人身売買の対象になるなど、過酷な人生を歩む可能性が高くなる。孤児たちの卒業後は、決してバラ色ではない。



国際交流の会とよなかの葛西美紗代表は、この孤児院の設立者でもあり、これまで現地を30回以上訪問している



NPO法人 国際交流の会とよなか (TIFA)
〒560-0022 大阪府豊中市北桜塚4-7-17-109
TEL/FAX : 06-6840-1014
Email : tifa99@nifty.ne.jp
URL : http://homepage1.nifty.com/tifa/

あなたの小さな一歩から始まる国際協力
世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>